

麻しん（はしか）患者の発生について

- 令和8年2月12日、新潟市内の医療機関から新潟市保健所へ麻しん疑い患者の届出があり、市衛生環境研究所で検査を実施したところ、麻しんウイルスが陽性で診断が確定しました。
- この結果に基づき、新潟市保健所が当該患者の疫学調査を実施したところ、周囲へ感染させる可能性のある期間に以下の公共交通機関の利用が判明しました。
- 当該施設と同じ時間帯に利用された方で、麻しんに対する免疫が無い方は、麻しんウイルスに感染する可能性があるため、注意喚起をするものです。
- 感染の可能性がある日時に、当該施設を利用された方で、利用日から3週間（2/21まで）の間に、発熱や発疹等、麻しんを疑う症状が現れた場合は、事前に医療機関に電話連絡の上、指示に従い受診してください。また、移動の際は、周囲の方への感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。

【麻しん患者が利用し、接触者を特定できない公共交通機関等】

| 利用日 | 時間帯（目安） | 患者が利用した施設など |
|----------|---------------------|-------------------|
| 1月31日（土） | 18:12 東京発 20:07 新潟着 | 上越新幹線とき 337号 10号車 |
| 1月31日（土） | 20:10 頃新潟駅発 | 新潟交通古町方面バス |

※1 上記交通機関への直接のお問い合わせはお控えください。

※2 麻しんウイルスは、空気中での生存期間は2時間以下とされています。現時点において、この時間帯以外に利用された場合は、感染の心配はありません。

※3 今後の調査で、他に公表すべき施設等がある場合、改めてお知らせします。

1. 患者の概要

30歳代 男性

2. 発生経過等

2月1日 発熱

2月3日 市内のA医療機関を受診

2月5日 のどの痛み、咳出現しB医療機関受診

2月7日 発疹出現、C医療機関を受診し、D医療機関に紹介入院

2月12日 C医療機関の血液検査（抗体検査）で麻しん疑い結果あり、精密検査を市衛生環境研究所にて実施

2月13日 市衛生環境研究所による遺伝子検査の結果、麻しんと確定

※患者は軽快し退院しており、他者への感染性も消失しています。

※医療機関等における患者との接触者については特定されており、順次、健康観察などお願いしています。

【電話相談窓口を設置します】

- 2月14日（土曜日）、15日（日曜日）9:00～17:00
- 開庁日 8:30～17:30

新潟市保健所保健管理課感染症対策室 025-212-8123

【麻しん（はしか）について】

1. 一般的な症状

- ・感染すると、約 10 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が 2～4 日続き、その後 39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。

2. 患者からどのように感染するか

- ・症状が出現する 1 日前から解熱後 3 日程経つまで（全経過を通じて発熱がみられなかった場合、発疹出現後 5 日間まで）は、ウイルスを体外に出しており、周囲の麻しんに対する免疫が不十分な人が感染する可能性があります。
- ・麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染でその感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100% 発症すると言われています。

3. どのような人が感染しやすいか

- ・予防接種を受けていないなど麻しんに対する免疫が無い人です。予防接種や麻しんにかかり十分な免疫をもっていれば、再度かかる心配はないと言われています。

＜麻しん患者の発生状況＞

| | 令和3年 | 令和4年 | 令和5年 | 令和6年 | 令和7年 | 令和8年 |
|-----|------|------|------|------|------|------|
| 全国 | 6 | 6 | 28 | 45 | 265 | 32 |
| 新潟県 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 新潟市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

※ 令和 8 年の情報は第 6 週まで（令和 7 年 12 月 29 日～令和 8 年 2 月 8 日）の累積速報値です。

※ 新潟市で麻しん患者の発生が最終確認されたのは平成 31 年 3 月です。

新潟市保健衛生部保健所保健管理課感染症対策室 025-212-8123 (担当：大宮・田中)

＜お願い＞

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、感染症及び患者家族等について本人が特定されることがないよう、人権に格段のご配慮をお願いいたします。

※この件についての、問い合わせは、本日午後 8 時までにお願いします。